令和7年度 東北地区

定員 300 名　　参加無料　申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

開 催 概 要

日時	令和7年12月4日(木) 14：00～17：10
会場	仙台国際センター（展示棟） 宮城県仙台市青葉区青葉山
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	10月1日～11月25日
継続教育	CPDS対象
資料	会場では配布いたしません。必要に応じてWebサイトより出力し持参願います。 11月27日掲載予定

≪開催日一覧≫

地区	開催日	申込締切
東京地区	10/03(金)	09/23(火)
大阪地区	10/17(金)	10/07(火)
北海道地区	10/24(金)	10/14(火)
中部地区	11/07(金)	10/28(火)
九州地区	11/21(金)	11/11(火)
東北地区	12/04(木)	11/25(火)

(6地区開催ですが発表テーマは異なります)

開会	14:00～14:05	開会の辞	(一社)日本橋梁建設協会
第一部 技術発表	14:05～14:40	技術発表（1） 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査 ～沖縄地区での21 年目調査報告～	製作小委員会
	14:40～15:15	技術発表（2） 都心住宅街に位置する幹線道路と高速出入口の交差部における橋梁架設 ～ ヤード制約が多い中で既設構造物との干渉に配慮した曲線桁の送出し架設 ～	架設小委員会②
	15:15～15:20	休憩	
	15:20～15:55	技術発表（3） バングラデシュ・ジャムナ鉄道橋　上部工工事報告 ～ 大河ジャムナ川に架かるアジア最大級の連続トラス鉄道橋 ～	海外事業委員会②
	15:55～16:05	休憩	
第二部 特別講演	16:05～17:05	（調整中）	東北地方整備局 東北道路メンテナンスセンター長 手間本 康一
閉会	17:05～17:10	閉会の辞	橋梁技術発表会　実行小委員会 委員長　本田 政樹

発 表 概 要

鋼構造物における維持管理コスト低減と長寿命化を目的として、様々な防食方法が検討されているが、金属溶射も有効な手段のひとつであり、鋼道路橋塗装・防食便覧（平成17 年12 月 社団法人日本道路協会）に代表的な防食技術として掲載されたことにより、施工事例も増加しています。しかし、鋼橋の防食方法として金属溶射が本格的に採用されるようになってからまだ日が浅く、金属溶射の耐久性に関するデータが少ないこと、試験板を用いた促進試験が主であることが実状です。このため、（一社）日本橋梁建設協会では、（国研）土木研究所との共同で、腐食環境の厳しい沖縄地区において金属溶射の耐久性検証を目的として、大型試験桁を用いた暴露試験を2002年6月から開始しました。
本報告は、暴露21 年目までの調査結果について報告します。

首都圏の渋滞緩和、環境改善、円滑な交通ネットワークの構築を目的とした東京外かく環状道路の延伸工事に伴い、大泉ジャンクションにて関越自動車道と外環自動車道延伸部との接続ランプ橋梁・橋脚を架設しました。
本工事では、住宅街近傍での狭小な施工ヤードに加えて地下埋設物が横断するなど制約が多い中、さらに近接した既設構造物との干渉にも配慮する必要があり、送出し構台の配置や送出し線形の設定、ガイド設備、手延機のたわみ処理などに工夫をして曲線桁の送出し架設を実施しました。本発表では、送出し架設での工夫のほか、ヤード制約がある中での鋼製橋脚の架設、床版コンクリート施工についても工夫した点を中心に報告します。

ジャムナ鉄道橋建設工事プロジェクトは、バングラデシュ人民共和国の経済成長に伴う将来の鉄道輸送需要への対応等を目的にJICA有償資金援助により実施されたプロジェクトです。本プロジェクトは、橋梁上・下部工、駅舎、盛土工、護岸工事等の多工種が含まれ、プロジェクト総延長12.5kmはジャムナ川中央部を境に東西2工区に分割発注されました。
その中で主橋梁に位置づけられるジャムナ鉄道橋は、国土中央部を南北に流れる大河ジャムナ川の渡河部に計画された延長4.8km、鋼重約41,000トンの連続トラス鉄道橋で、東工区2.55km、西工区2.25kmを担当しました。工事期間中には、新型コロナパンデミック、ミャンマー政変、ロシアのウクライナ侵攻、バングラデシュ政変等の想定外イベントが工事進行に大きな影響を及ぼしましたが、2025年3月に上下線を開通することが出来ました。
本発表では、ジャムナ鉄道橋の上部工工事の製作、輸送、現地架設に関する一連の活動を報告します。

主催：　一般社団法人 日本橋梁建設協会 Japan Bridge Association Inc.　https://www.jasbc.or.jp/